

〔目的〕 鎌倉時代に渡来した禅宗の僧衣の中で、殊に臨済宗の礼装として用いられていた九条装束の構成面について現存する資料をもとに詳しく考察をすすめた。

〔方法〕 京都市内の寺、京都国立博物館、井筒博物館、四天王寺国際仏教大学図書館、実物資料により調査研究を行った。

〔結果〕 開山和尚が、元より将来してきた貴重な資料であるだけに、条、縁、四天王寺に使用されている織物は他に類のない豪華なものであるが、縫製面については、平安時代の装束類と、鎌倉時代の他家派の装束の一部に、類似点を見い出すことができた。